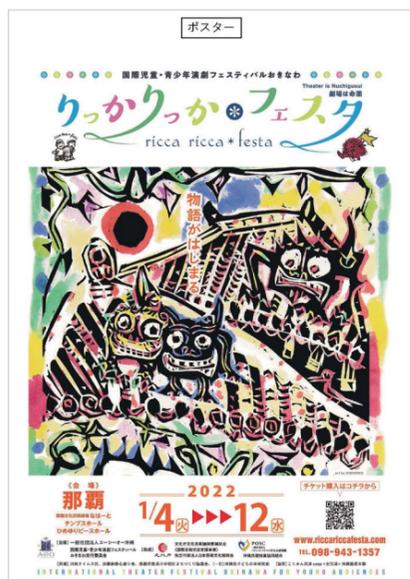


共同助成(沖縄県遊技業協同組合)

「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ 特別無料公演」事業

沖縄の演劇・芸術界に足跡を残してきた団体による 演劇フェスティバルが新型コロナ禍でも無事に開催

経済的な格差が文化的な格差を生んでいる背景に加え、障がいのある子どもたちや親子が劇場へ足を運ぶ機会が非常に少ないという現状のなか、質の高い演劇やパフォーマンスの舞台作品を子どもたちや親子へ届け、様々な感動体験を味わってもらうことで豊かな心と感性を育む場を提供したいという思いで活動している。



「りっかりっか*フェスタ」開催を告知するポスター

新型コロナの影響を受けながらも 「りっかりっか*フェスタ」を無事開催

一般社団法人「エーシーオー沖縄」は、1990年に開催された「エーシーオー沖縄演劇祭」を皮切りに、「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」や文化芸術に関する国際シンポジウム、セミナーを精力的に開催するなど、創立以来、地元沖縄の芸能を取り入れた意欲的なオリジナル作品を次々に発表してきた。

同法人が主催団体として特に力を入れている「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」(2015年から「りっかりっか*フェスタ」の愛称)は、当初から沖縄県内外の児童・青少年に海外・国内の質の高い舞台作品を届け、子どもたちが家族・友人と様々な感動体験を共有すること

で豊かな心と感性、想像力と創造力を育む場を提供することを目的に開催してきたが、今年の開催で19回目を迎えた。

1月4日～12日まで、那覇文化芸術劇場なはーと、ひめゆりピースホール、テンプスホールを会場に開催した「りっかりっか*フェスタ」では、演劇など20作品の上演や海外の5つの映像作品の配信などを行った。当初は、その一環として、韓国のカンパニーを招いて文化施設や障がいのある子どもたちがいる施設へ出前公演を行うプログラムを予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響を受けて断念せざるを得なくなった。そのため、急遽、国内の優れた2作品を選定・招聘することとした。その2作品の上演に、POSCおよび沖縄県遊技業協同組合の共同助成を活用

した。なお、この2作品も施設への出前公演から、劇場での公演に変更して実施した。

パントマイムや積み木ワークショップに 障がいを持つ方々や親子、関係者を招待

その2作品のうちの一つが、1月4日と5日にはなはーと小劇場で上演した『Kabarett×かばれっと』というパントマイム(ノンバーバル)作品で、2人の音楽道化師によるおどけたパントマイム、音楽演奏、マジック、歌などのパフォーマンスを披露し、会場は大きな笑いや歓声に包まれた。

もう1作品は、1月7日～9日にテンプスホールで開催した『楽つみ木子どもアートアクション』と題されたワークショップで、木楽舎つみ木研究所の指導で行われたもので、参加した子どもたちは、3種類の積み木計2万個を使い、「チャンプルー」をコンセプトにして思い思いに街を作り上げた。なお、この2作品には、普段なかなか入居施設外で舞台を観る機会の少ない年配の方々とそのご家族、障が

いのある子どもたちとご家族や親子などが無料で招待されて参加した。

演劇は、子どもの表現力やコミュニケーション能力を高める最も良い教育の一つと言われているが、同法人では「今回は特に、文化格差や地域格差、障がいの壁を乗り越え、誰一人取り残さない、誰もが文化芸術を享受できる社会を目的に多くのカンパニーを招聘し、公演を行いました」と話す。コロナ禍という大変な時期に慎重を期しての開催だったが、『久しぶりにコロナのことを忘れて楽しく笑いました』、『感染者急増で躊躇しましたが、来てよかった』という声が、会場に詰めかけた参加者から多く寄せられた。

沖縄県遊技業協同組合より

沖縄発の演劇フェスティバルの灯を絶やさないためにお手伝いしたいという思いで助成させていただきました。



パントマイムショー「Kabarett×かばれっと」



ワークショップ「楽つみ木子どもアートアクション」

助成団体:一般社団法人 エーシーオー沖縄

<https://www.acookinawa.com>



共同助成を活用することで優れた作品の招聘・公演が可能に

今回の取り組みが、文化格差や地域格差、障がいの壁を乗り越え、誰一人取り残さない、誰もが文化芸術を享受できる社会の実現への一歩となるよう、これからも活動を続け、子どもたちの豊かな心と感性を育むことに寄与してまいります。公演後に届いた積み木を活用し、子育て支援や障がいを持った子どもとその親の心のケア・居場所づくりなどに活用していきます。

一般社団法人 エーシーオー沖縄
理事 下山 久さん